

LGBTQ フレンドリーな医療機関となるための 10 か条

(2023 年 5 月版)

- ① 上層部・管理職がリーダーシップを発揮し、積極的に取り組もう
- ② LGBTQ の人々に配慮した医療機関の方針を明示しよう
- ③ LGBTQ の人々が訪れやすい空間となるよう工夫しよう
- ④ 書類や問診票にも配慮しよう
- ⑤ すべてのスタッフが、LGBTQ に配慮したコミュニケーションやケアに関する職員研修を受けるようにしよう
- ⑥ 患者の SOGI の多様性を尊重しよう
- ⑦ 性についての病歴聴取は包括的に実施しよう
- ⑧ LGBTQ のニーズに応えるようなケアとサービスを提供しよう
- ⑨ LGBTQ のスタッフを採用し、雇用し続けよう
- ⑩ 地域の LGBTQ コミュニティにアウトリーチしよう

金久保祐介(文責), 坂井雄貴, 川島篤志

一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 セクシュアルヘルス委員会

【10 か条の解説】

本資料は、金久保が「medicina2022 年 10 月号¹⁾」に寄稿した資料をもとに、日本プライマリ・ケア連合学会セクシュアルヘルス委員会で協議の上作成したものです。原案となった文献²⁻⁴⁾もあわせて参照ください。また、勉強会や自施設の質評価などに用いる際には 10 か条に加えて、この解説も合わせてご利用ください。

①上層部・管理職がリーダーシップを発揮し、積極的に取り組もう

- 患者にも職員にも LGBTQ 当事者はいます。当事者からはなかなか声を上げづらいことが多いので、上層部・管理職が積極的にアドボケイトを発揮しましょう。

②LGBTQ の人々に配慮した医療機関の方針を明示しよう

- 患者向けあるいは雇用に関する差別禁止の方針には「性的指向」「性自認」「性表現」といった用語を含めましょう。
(「性表現」は髪型、服装、話し方、立ち振る舞いなどを通じて自身の性を周囲に伝えるあり方を指します)
- トイレは性自認に合わせたものを使えるようにしましょう。
- 「家族」の定義を広く解釈し、法的関係や血縁に関わらず本人が「家族」だと思う人たちを「家族」としましょう。
- パートナー(同性パートナーも含む)、同棲相手、「家族」、友人など患者が希望する人は誰でも面会でき、キーパーソンにもなれることを明示しましょう。
(「家族」は法的な意味での親族関係のみを意味せず、より広い範囲の人(患者および患者の意思をよく理解している関係者、親しい友人等)を含み、複数人存在することもあります⁵⁻⁶⁾)
- 差別禁止の声明は、施設内やウェブサイトの見えやすい位置に掲示しましょう。

③LGBTQ の人々が訪れやすい空間となるよう工夫しよう

- レインボーフラッグを設置する、LGBTQ に関する掲示物を貼る、LGBTQ に関わる患者向け資料や本・絵本などを待合室に置くといった工夫をしましょう。
(6 色の虹は LGBTQ のシンボルです)
- ウェブサイトに LGBTQ フレンドリーであることが伝わるような内容やサインを盛り込みましょう。
- だれでもトイレ・オールジェンダートイレを設置しましょう。
(LGBTQ に限らず、性別分けされていない個室のトイレがあると便利です。また介護者と被介護者の性別が異なる場合にも使いやすいです)

④書類や問診票にも配慮しよう

- 不要な性別欄はなくしましょう。

(院内で独自に作成している問診票(インフルエンザなど自費の問診票など)から始めてみましょう)

- 「妻/夫」でなく「配偶者/パートナー」、「母/父」ではなく「両親/保護者」といった表現を用いましょう。

⑤すべてのスタッフが、LGBTQ に配慮したコミュニケーションやケアに関する職員研修を受けるようにしましょう

- LGBTQ の人々の抱える健康格差や配慮したコミュニケーション(適切な言葉遣いをする, 相手の SOGI について決めつけないなど)をあらゆる職種のスタッフ全員が学べるようにしましょう。

(SOGI とは, 性的指向 sexual orientation・性自認 gender identity のことを指します)

⑥患者の SOGI の多様性を尊重しよう

- 患者の SOGI について決めつけないようにしましょう。
- もし患者から SOGI について開示された場合は, どの情報(例: 同性パートナーをキーパーソンにしたい, 通称名を使いたいなど)をスタッフ間やカルテ記載で共有してよいかなど個別に細やかな対応ができるようにしましょう。
- 開示された内容に応じたケアやスクリーニングを提供できるようにしましょう。

⑦性についての病歴聴取は包括的に実施しよう

- 「適切なケアを提供するためにみなさんにお聞きしているのですが」といった前置きから始め, 「パートナーはいますか/交際している相手はいますか」のような多様なせいに配慮した質問を心がけましょう。
- 「5 つの P (Partners, Practices, Protection from STIs, Past history of STIs, Prevention of / planning for pregnancy)」などの性行動歴聴取の枠組みを活用しましょう⁷⁾。
- 性行動や性感染症・HIV, 妊娠関連の話題はもちろん, 必要に応じて性機能や満足度, 欲求, パートナーからの暴力や, 家族計画などについても相談に乗れるようにしましょう。

⑧LGBTQ のニーズに応えるようなケアとサービスを提供しよう

- 性感染症や HIV の検査や予防についての情報提供ができるようにしましょう。
(PEP/PrEP (post-exposure prophylaxis/pre-exposure prophylaxis)についても基礎的な知識は学んでおきましょう)
- 保持している臓器に応じた予防的スクリーニング(子宮頸がん, 乳がんなど)が必要であることを意識しましょう。
- 飲酒や喫煙に関する指導や, メンタルヘルスのサポートも提供できるようにしましょう。
- 医療機関, 福祉, 行政, 当事者団体などの連携先・紹介先や, 地域のリソースを把握してお

きましょう。

⑨LGBTQ のスタッフを採用し、雇用し続けよう

- 「性的指向」「性自認」「性表現」を含む、被雇用者の差別禁止を明示しましょう。
(セクシュアリティの開示を求め、一定割合以上の LGBTQ のスタッフを雇用するという意味ではありません。誰もが安全に働ける職場であることを明示し、担保することが大切です)
- 同性パートナーや未婚のパートナーなどに対しても福利厚生を拡充しましょう。

⑩地域の LGBTQ コミュニティにアウトリーチしよう

- 地域の LGBTQ イベントがあれば参加したり、アンケート調査をしたり、ステークホルダーと話をしたりしてニーズを同定し、ケアの改善に繋げましょう。

参考文献：

- 1) 金久保祐介:LGBTQ の診療評価指標. medicina 59(11):pp2012-2015, 医学書院, 2022
- 2) Furness BW, et al: Transforming Primary Care for Lesbian, Gay, Bisexual, and Transgender People: A Collaborative Quality Improvement Initiative. Ann Fam Med 18(4):292-302, 2020
- 3) Human Rights Campaign: Healthcare Equality Index 2022. [available from: <https://www.hrc.org/resources/healthcare-equality-index>]
- 4) National LGBTQIA+ Health Education Center, a program of the Fenway Institute: Ten strategies for creating inclusive health care environments for LGBTQIA+ people. [available from: <https://www.lgbtqihealtheducation.org/wp-content/uploads/2021/05/Ten-Strategies-for-Creating-Inclusive-Health-Care-Environments-for-LGBTQIA-People-Brief.pdf>]
- 5) 厚生労働省:人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン. 2018年3月.
- 6) 日本救急医学会, 日本集中治療医学会, 日本循環器学会:救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言～. 2014年11月.
- 7) 山下洋充:問診・診察において配慮すべきこと. 吉田絵理子, 他(編):医療者のためのLGBTQ 講座, pp16-20, 南山堂, 2022